

情報衣環境学専攻

—学位授与・教育課程編成・入学者受入れの方針—

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位授与の前提となる教育理念】

情報衣環境学専攻では、衣の観点から快適・健康・安全で質の高い生活環境を創り出すために必要な新しい技術開発や諸問題の研究に取り組める指導的人材と、現代社会の ICT 環境を構成しつつあるライフ・コンピューティングの観点から生活環境を改善する技術を開発し社会に発信できる人材、さらに双方の融合した先端学際領域で活躍できる人材を育成することを目的にしています。本専攻では、衣環境学コースと生活情報通信科学コースが有機的に連携して、明確な問題意識に基づいて課題を設定し、その課題に主体的・積極的に取り組む意欲が求められます。

【身につけるべき力】

- ・各コースで指定する高度な基礎学力
- ・問題発見と解決能力
- ・解決した課題を社会に還元する能力
- ・社会で貢献するためのコミュニケーション能力

【学位授与の要件】

所定の年限以上在学し、カリキュラム・ポリシーに沿って設定された授業科目について所定の単位を修得し、コースごとに示す形式的要件を満たすことが課程修了の基準となります。

上記の資質・能力を身につけ、所定の期間在学して所定の単位を修得し、かつ修士論文の審査に合格した学生に修士（学術、生活環境学、家政学のいずれか）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

学生は履修系列として、高度な専門的能力を養成する専修系、広い視野を備えた多様なタイプの優秀な人材を養成する複合系のどちらかを選択し、以下の科目群から履修します。教養科目群では大学院生に必要な教養を培います。専門群では講義・演習などを通して高度な専門教育を行います。論文等作成群では修士論文作成の執筆に向けて指導を行います。

【教育の内容と方法】

情報衣環境学専攻では、衣の観点から快適・健康・安全で質の高い生活環境を創り出すために必要な新しい技術開発や諸問題の研究に取り組める指導的人材と、現代社会の ICT 環境を構成しつつあるライフ・コンピューティングの観点から生活環境を改善する技術を開発し社会に発信できる人材、さらに双方の融合した先端学際領域で活躍できる人材を育成することを目的にしています。従って、安全で快適な衣環境を実現するための教育研究を行う衣環境学コースとライフ・コンピューティングの推進を目指す生活情報通信科学コースの2つのコースを設け、互いに連携しあったカリキュラムに基づき、より良い生活環境を創出する情報衣環境学の展開を目指します。また高度技術者・研究者が社会で求められる教養に corres pond するため大学院教養科目を用意しています。さらに生活環境学部からの6年一貫教育プログラムでは、学部から修士論文作成まで継続的に研究を行い質の高い修士論文を目指すとともに、留学など海外での研究を自ら柔軟に設計することが可能です。

【学習成果の評価】

各コースで評価の仕方が異なり、コースごとに定めています。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

情報衣環境学専攻は次の3点を基本理念の柱とします。衣の観点から快適・健康・安全で質の高い生活環境を創り出すために必要な新しい技術開発や諸問題の研究に取り組める指導的人材を育成すること。そして、現代社会の ICT 環境を構成しつつあるライフ・コンピューティングの観点から生活環境を改善する技術を開発し社会に発信できる人材を育成すること。さらに双方の融合した先端学際領域で活躍できる人材を育成すること。これらの理念を実現するために、衣環境学コースおよび生活情報通信科学コースにおいて、多岐多様な分野に関する最先端の研究教育を行っています。

【求める学生像】

本専攻は衣環境学と生活情報通信科学を軸とする生活環境科学の多様な教育研究を行っています。従来の科目区分の枠に収まらない学際的な研究分野に興味を持ち、安全で快適な衣環境設計やライフ・コンピューティングの展開に積極的に関わる意欲のある学生を歓迎します。専門分野の研究を十分に行うために英語の能力も必要です。以上の点に関して十分な知識を習得していることを期待します。さらに6年一貫で進学する学生に期待します。

【入学者選抜の基本方針】

コース毎に入学試験科目を設定し、その成績に基づき総合的に判断して合格者を決定します。

(情報衣環境学専攻 衣環境学コース)

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位授与の前提となる教育理念】

衣環境学コースは、先端技術を取り入れた衣環境を創造できる能力と安全で快適な衣環境を構築できる能力で社会に貢献できる人材を養成します。

【身につけるべき力】

安全で快適な衣環境を構築できる能力で社会に貢献できることが課程修了の基準となり、修了要件は次のとおりです。

- ・衣環境学に関連する自然科学分野の高い水準の基礎学力
- ・安全で快適な衣環境を設計し、持続可能社会へ貢献できる能力
- ・衣環境や衣生活に関する問題解決のための研究を遂行する能力
- ・以上の能力を身につけて、修士論文を作成し、修士論文発表会で発表し、審査に合格する。

【学位授与の要件】

上記の資質・能力を身につけ、所定の期間在学して所定の単位を修得し、かつ修士論文の審査に合格した学生に修士の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

学生は以下の科目群から履修します。教養科目群では研究者倫理などの教養を培います。専門群では特論、演習などを通して高度な専門教育を行います。論文等作成群では修士論文の執筆に向けて指導を行います。

【教育の内容と方法】

衣環境学コースでは、快適な衣生活を実現するためのアパレルの備えるべき特性を、アパレル素材の高機能化と高性能化、被服の企画・設計、生産性、さらには着用によって低下した機能の回復に至る多面的な領域について、繊維構造論、繊維表面分析論、アパレル洗浄論、衣環境管理論、界面化学等の立場から総合的に教育・研究します。本コースにおいては、専門的知識のみならず創造性豊かな研究能力や総合的課題処理能力をもつ人材を養成します。また、6年一貫教育プログラムでは、学部から修士論文作成まで継続的に研究を行い、研究の質を高め、さらに研究能力を高めることが可能です。

【学修成果の評価】

開講科目は、シラバスにその成績評価の方法を明示します。修士論文は、提出された論文と口頭試問により評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

本コースは、健康で快適かつ安全な生活の在り方を実現するために、物質科学、環境科学、分析科学の原理や技術に基づき、衣環境学に関連する分野について研究・教育することを目的とします。したがって、広い視野に立ちこの分野に対する意欲的な探求心を持つ学生を望みます。

【求める学生像】

- (1) 物理、化学、数学の基礎学力や一定の科学的知識を備えている。
- (2) 衣環境学分野において将来の科学的展望を切り開いていこうとする意欲がある。
- (3) 学術論文を理解する語学力と読解力がある。

【入学者選抜の基本方針】

上記の【求める学生像】で示す能力等を有する人を多面的・総合的に評価するため、以下の方法により選抜します。

一般選抜

衣環境学分野から出題する「専門科目」の筆記試験、「英語」（TOEFL もしくは TOEIC）、および口述試験の成績、ならびに出身大学等の発行する成績証明書を総合して判定します。

社会人特別選抜

衣環境学分野から出題する「専門科目」の筆記試験、「英語」（TOEFL もしくは TOEIC）、および口述試験の成績、出身大学等の発行する成績証明書、ならびに任意で提出された研究論文等を総合して判定します。

外国人留学生特別選抜

衣環境学分野から出題する「専門科目」の筆記試験、「英語」（TOEFL もしくは TOEIC）、および口述試験の成績、出身大学等の発行する成績証明書、ならびに任意で提出された日本語能力確認書類を総合して判定します。

6年一貫教育プログラム特別選抜

6年一貫教育プログラムにおける成績を用いた書類審査により判定します。

(情報衣環境学専攻 生活情報通信科学コース)

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位授与の前提となる教育理念】

生活情報通信科学コースでは、現代社会の ICT 環境を構成しつつあるライフ・コンピューティングの観点から生活環境を改善する技術を開発し社会に発信できる人材を養成します。具体的にはコンピュータシステム、人工知能、計算理論、数値計算、ソフトウェア工学等の複数分野での高度な教育を行い、自ら課題を探し出し問題解決を行い情報発信する意欲を持った人材を養成します。

【身につけるべき力】

- ICT に関する高度な知識を組み合わせ、様々な分野での問題に対する新たな解決法を考案する能力
- コンピュータシステム、人工知能、計算理論、数値解析、ソフトウェア工学等の最先端技術を身につけ、主体的に課題を見つけ出し解決していく能力
- 高度な専門知識を社会へ還元するための情報発信能力とコミュニケーション能力

【学位授与の要件】

上記能力を身につけ、修士論文作成前に少なくとも一回学会等で对外発表を行った後、修士論文を作成し、修士論文発表会で研究発表を行い、審査に合格することを学位授与の要件とします。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

学生は以下の科目群から履修します。教養科目群では研究者倫理などの教養を培います。専門群では講義・演習などを通して高度な専門教育を行います。論文等作成群では修士論文の執筆に向けて指導を行います。

【教育の内容と方法】

現在の ICT 環境からライフ・コンピューティングを実践する教育研究を推進するために、コンピュータアーキテクチャからシステムソフトウェア、インターネット、人工知能、計算理論、数値解析、ソフトウェア工学等、実問題にすぐに応用できる科目を設置します。特にロボティクスやビッグデータ、深層学習等の最先端技術の講義も数多く設置することで、情報科学の基礎から応用まで幅広く身につけた人材を養成します。

【学修成果の評価】

開講科目は、シラバスにその成績評価の方法を明示します。修士論文は、提出された論文と口頭試問により評価します。ただし、修士論文作成前に少なくとも一回学会等で对外発表を行うことを修士論文作成の条件とします。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

生活情報通信科学コースではライフ・コンピューティングに関する様々な課題に主体的に取り組める人材を育成します。すなわち、現在の生活環境から問題を発見し、その解決方法を模索し、新たな手法を考案・開発し、それを社会に発信できるような人材の育成です。具体的な分野として、コンピュータシステム、人工知能、数値解析、ソフトウェア工学等から生活環境をよりよくするための意欲のある研究者技術者を社会に輩出します。

【求める学生像】

生活情報通信科学コースではプログラミングやコンピュータシステム、情報理論等の情報科学の基礎を習得していることに加え、専門分野の研究を行うために英語の能力も必要となります。さらにライフ・コンピューティング等に代表される従来の情報科学の科目区分に収まらない研究分野に興味を持ち、新しい分野の展開に積極的に関わる意欲ある学生を歓迎します。

【入学者選抜の基本方針】

上記の【求める学生像】で示す能力等を有する人を多面的・総合的に評価するため、以下の方法により選抜します。

一般選抜

情報科学分野から出題する「専門科目」の筆記試験、「英語」の筆記試験、および口述試験の成績、ならびに出身大学等の発行する成績証明書を総合して判定します。

社会人特別選抜

情報科学分野から出題する「小論文」の筆記試験および口述試験の成績、出身大学等の発行する成績証明書、ならびに任意で提出された研究論文等を総合して判定します。

外国人留学生特別選抜

情報科学分野から出題する「専門科目」の筆記試験、「英語」の筆記試験、および口述試験の成績、出身大学等の発行する成績証明書、ならびに任意で提出された日本語能力確認書類を総合して判定します。

推薦選抜

研究内容に関して口頭発表および質疑応答を行う口述試験の成績と推薦書などの提出書類を総合して判定します。

6年一貫教育プログラム特別選抜

6年一貫教育プログラムにおける成績を用いた書類審査により判定します。